

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	中島 康博
論文担当者	主査 小柴 賢洋
	副査 長谷川 誠紀
	副査 辻村 亨
学位論文名	Adenosine Deaminase in Pleural Effusion and Its Relationship with Clinical Parameters in Patients with Malignant Pleural Mesothelioma (悪性胸膜中皮腫における胸水 ADA 値の臨床的有用性に関する検討)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>悪性胸膜中皮腫 (MPM) は胸膜の漿膜に発生する中皮細胞由来の悪性腫瘍で、石綿の曝露と因果関係があり、比較的稀な疾患であるが罹患者数、死亡者数ともに増加している。診断には胸腔鏡下胸膜生検による病理診断が必要だが、早期発見が非常に困難であり、生検が困難な症例も多い。MPM では胸水の出現が特徴的だが、胸水細胞診にて中皮腫の確定診断に達する症例は 30%程度である。そこで申請者は MPM における胸水 ADA 値の他疾患 (肺癌、結核性胸膜炎以外の良性疾患、その他の悪性疾患、結核性胸膜炎) との鑑別における意義を検討し、また MPM 内 (組織型、進行度) における胸水 ADA 値の比較および胸水 ADA 値による予後の差を検討した。</p> <p>MPM131 例、肺癌 117 例、結核性胸膜炎以外の良性疾患 54 例、その他の悪性疾患 20 例、結核性胸膜炎 7 例について胸水中の ADA 値を比較したところ、MPM では胸水 ADA 値の平均値は 32.29IU/L で中央値は 26.50IU/L であり肺癌・結核性胸膜炎以外の良性疾患と比較し有意に高値であった。MPM と肺癌、MPM と結核性胸膜炎の胸水 ADA 値の cut-off 値について、ROC 曲線を作成し Youden's index を用いて得られた最適の cut-off 値は、それぞれ 22.6IU/L、67.2IU/L で、その際の感度はそれぞれ 0.6336、0.736、特異度はそれぞれ 0.9695、0.7143 であった。一方、組織型別にみた胸水 ADA 値では上皮型とそれ以外で有意差はなく、進行度別に見た胸水 ADA 値では IMIG 分類 T4 とそれ以外で有意差はなかった。また様々な cut-off 値を設定し胸水 ADA 値の生存比較を検討するも有意差は認められなかった。</p> <p>胸水採取は胸腔鏡下胸膜生検に比べて低侵襲であり、本研究は MPM の補助診断、さらには病態解明と新規治療法開発にもつながりうる臨床的に重要な研究であり、学位論文に値すると判断された。</p>	

